8月 31 日（月曜日）「取税人レビの招き」

【新改訳 2017】

ルカ　5.27-32

「‥‥・イエスは出て行き、収税所にすわっているレビという取税人に目を留めて『わたしについて来なさい』と言われた。するとレビは、何もかも捨て、立ち上がってイエスに従った。」（27、28 節）

この取税人とは、ローマ帝国の税金の取り立てのために働いた人たちでした。彼らは、過分に税を徴収して私腹を肥やし、民衆からは嫌悪され、孤立し、お金はあっても心はむなしかったようです。

レビもそうだったと思われます。主はすべてをご存じでレビに声をかけられたのです。彼はどんなにかうれしかったことでしょう。すぐイエスに従っていき、また、自分の家で大宴会をしました。喜びようがわかります。

律法の文字を守っても、その心、すなわち愛がないために批判した人たちには、主は罪人たちをこそ救うために来たことを言明されました。レビ（マタイ）は、イエスの

使徒の一人となり、マタイの福音書を残しました。主は、人を生まれ変わらせ、用いられるお方です。

～祈り～

主よ。レビ以上に罪深いはずのこの者をもお救いくださり、神の子どもとしてくだった、あなたの心と愛の大きさに心から感謝いたします。

【学びのために】

取税人について:ローマ政府のために税を取り立てる人。不正な徴収や背任行為などのために避難され、孤立(独)状態の人が多かったようです。取税人ザアカイの話も有名(ルカ 19.1-10)